

アンガンブル

2019.9.25

No.41

編集・発行 中野区男女共同参画センター 〒164-8501 中野区中野 4-8-1 TEL(3228)8229 FAX(3228)8860

内容について、ご意見、ご感想をお寄せください。

多様性を認め合う社会へ

「中野区パートナーシップ宣誓」をご存知ですか？多様な生き方、個性や価値観を受け入れることができる地域社会の実現をめざす取組の一つとして、お互いを人生のパートナーとして協力しあい、同居して共同生活を行う同性の二人に、パートナーシップにあることを宣誓していただき、受領証等を交付する取組です。平成30年8月にスタートし、1年がたった8月末現在、33組の受領証等の交付を行いました。



多様性とは？



「多様」とは、ある辞書によると、「いろいろな種類（がある様子）」とあります。私たち一人ひとりには、年代、国籍、障がいの有無、職業や働き方、家族のかたち、価値観、ライフスタイル、性自認（自分の性をどのように認識しているか）や性的指向（どのような性別の人を好きになるか）など、異なる背景を持っています。そうした個性豊かな人々が、お互いにつながりあい、支えあって生きていくことは、まさしく「多様性を認め合う社会」がめざすところと言えるでしょう。

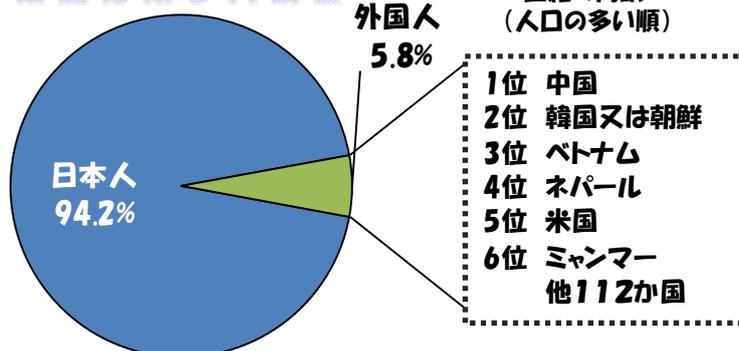
統計から見る中野区の多様性

「中野区における多様性」を、人口統計の中から抽出してみました。

中野区の人口は現在微増傾向にあり、男女比は若干男性が多いですが、ほぼ同率です。そのうち外国人は5.8%。これは東京都区部平均の4.9%を上回り、また国籍は118か国にも及びます（下記円グラフ参照）。特に20～30歳の人口が多く、2018年度における成人のつどい対象者のうち25.9%が外国籍で、その割合は年々増加傾向にあります。年齢3区分別人口では、0～14歳の年少人口は8.8%、15～64歳の生産年齢人口は70.7%、65歳以上の老年人口は20.5%です。少子高齢

	男性	女性	小計	合計
日本人	157,471 (47.5%)	154,861 (46.7%)	312,332 (94.2%)	331,658 (100%)
外国人	9,907 (3.0%)	9,419 (2.8%)	19,326 (5.8%)	

中野区の人口内訳



化の現状です。世帯構成では、世帯人員は1.62人で年々減少しており、そのうち単身世帯が6割以上を占めています。

また、障がい者手帳の保持者は約4%です。昼夜間人口比率（昼間人口/夜間人口）は95.4%で近年上昇傾向にあり、都心への通勤通学者の住宅都市から多機能都市へ変わりつつある状況がみられます。

出典：中野区統計書（平成31年）、令和元年版特別区の統計、中野区基本構想審議会資料、中野区健康福祉部事業概要2018、平成27年度国勢調査

統計で見えるのは形のある多様性であり、価値観など数値に表せない多様性もたくさんあります。

多様性をもたらす効果

生物多様性という観点からみると私たちは地球という大きな生態系の一員であり、3,000万種という多様な生物が、関わり合う生態系の中で繋がりが支えられて生きています。様々な人々の「個性」や「考え方」を受け入れ、共有し、助け合う事は人生を豊かにし、安心して健やかで幸せに暮らすための方法ではないでしょうか。自分では解決できない問題を周囲に相談する事により、情報を取得し人々の支援を受けたり、機会を得たりする事もあると思います。

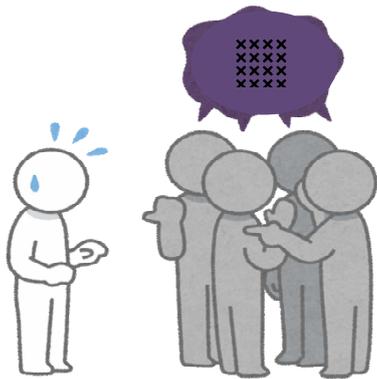
「多様性を認め合う社会」とは個人が自由、気ままに振る舞う事ではなく、地域社会に参加し貢献するという役割も期待されているのです。



多様性を阻む「壁」

「多様性は力になる」と理屈では分かっているにもかかわらず、多様性を阻む目に見えない「壁」により、人々が多様性を認め、互いに独自の価値観を誇りに思う社会はまだ実現していません。まずはその「壁」を直視することが、第一歩になるかもしれません。ここでは、制度や環境についての議論ではなく、人間の情緒的、心理的「壁」に光を当ててみます。

協働意識や、仲間意識が大事にされる社会雰囲気の中で生きている私達の多くは、集団の「常識」「スタンダード」に従うことで安心感を覚えます。そこで、私たちは無意識的に自分（あるいは自分たち）と違う者に対して警戒心を持っていないでしょうか。自分（たち）と違う人は集団の協調性を阻害するのではないかと心配したり、集団のスタンダードから外れていないかと厳しくチェックしたり、その異質性から不当に評価してしまうことがまだ日常的に起きています。



また、多様性を理解するためには、初めて触れる情報を処理する必要があります。たとえ多様性の良さを分かっているにもかかわらず、自分と違う人とのコミュニケーションを楽しむよりは、余計なエネルギーを割きたくないという気持ちが先行していないでしょうか。

私たちの、物事のメリットや効果を数値で測ったり即座に目で確認したがる心理も、多様性の推進を阻害している面があります。多様性は組織や社会の活性化につながります。しかし、すぐに効果を発揮するものではありませんので、長い目で見守っていく必要があります。

参考文献：李 修京（2019）『多文化共生社会に生きる—グローバル時代の多様性・人権・教育—』明石書店。岩波書店編集部（2013）『これからどうする 未来の作り方』岩波書店。菅沼 隆他（2014）『多元的共生社会の構想』現代書館。

多様性を認め合う社会へ

私たち一人ひとりが多様性を考えるにあたっては、まず自分の心の壁の存在を認識し、多様性が自分にとっての「負担」ではなく、地域や学校、職場での全員にとってのメリットとして積極的に認めるという心の変革が必要になるでしょう。多様性を認め合うためには、まずそれぞれの個人を理解する必要があると考えます。お互いを理解するために必要なことは、「お互いを知る」ことです。

自分のパターン思考は脇においておき、人の話をよく聞いて、その人の考えを認め、たとえ自分と異なる考えであったとしても尊重することができたら、誰もがいきいきと対等な立場でその個性と能力を発揮することが出来る多様性を認め合う社会に近づくのではないのでしょうか。



委員が調べました ～「バディ制度」～

これはベルギーのメヘレン市で成功した事例です。メヘレン市はかつて移民と住民のいさかいが絶えず、犯罪が多発、「ベルギー最悪の町」と呼ばれていました。しかし、そんな町を変えようと、2001年に就任した市長が移民と住民を二人1組にして半年間交流を続ける、「相棒」を意味する「バディ制度」を導入。移民は住民から語学を教わったり、地元の情報等得ることができ、スムーズに町の生活に溶け込めることができたのです。移民に偏見を持っていた住民も相手の持つ文化を理解し、心を開くことができたとしています。このバディ制度は日本でも大学で留学生と生徒との間で行われています。

自分とは違う誰かと「バディ」を組む、多様性理解の具体的なアクションだと感じました。



男女共同参画センターからのお知らせ

編集委員からの報告

事業実施報告

男女共同参画週間講演会

『命を輝かす人間～千葉ちゃん流 明日「笑顔」でいるために』

講師：千葉 真子さん(マラソンランナー/スポーツコメンテーター)

日時：2019年6月22日(土) 14:00～15:30

会場：中野区産業振興センター 地下多目的ホール

今回は、マラソンや10,000mなど陸上競技で活躍された千葉真子さんからお話を伺いました。



千葉さんが陸上競技に出会ったのは高校生の時。初めは実力が伴わず、途中ケガなどもあり、Aチームに入ることができたのは2年生になってから。ケガの間は腹筋・背筋・腕立て伏せをセットで繰り返し、自分なりの努力をしていたそうです。その結果タイムが伸びてレギュラーを獲得し、また、大学や実業団からスカウトされるきっかけとなったとのこと。1年であきらめていたら今の自分はない、大変な時こそ大きく変われるとお話されていました。

高校卒業後は実業団に入り、初めての国際大会であるアトランタ五輪でマラソン5位という成績を残し、その後の世界陸上パリ大会などで複数のメダルを獲得し輝かしい成績を収めました。その時のメダルを会場で見せてくださり、参加者は直接手に取って見る事ができました。

また、千葉さんは中学生のころ自分の声が嫌いだったそうです。人前で話すことなど考えられなかったのが、走ることと出会って自分が少し輝けるようになり、自信が持てるようになったとのこと。夢や目標を持つことで、何のために走るのか、働くのか、生きるのかという問いのヒントとなる、とお話されていました。

質問タイムでは、妊娠中の方から妊娠時のマラソンについてのご質問がありました。ご自身も2児の母である千葉さんは、経験を踏まえ、妊娠中は走らずウォーキングをしていて、産後はランニング専用のベビーカーを押して走っていた、とお答えされていました。マラソンで一番苦しい時を「ベストスマイル」で走るの、皆で作ってきたレースを最後に笑って迎えたいから、とお話された「千葉ちゃん」から、元気をもらった1日でした。



男女共同参画基本計画の進捗状況



中野区男女共同参画基本計画（第4次）の主な取組（事業）と成果指標について進捗状況調査を実施しました。成果指標の一部をご紹介します。

成果指標	実績		計画における目標値
	計画策定時	2018年度	2022年度
家庭生活における男女の地位が平等だと思ふ区民の割合 出典：区民意識・実態調査	2016年度 実績 36.6%	37.5%	40%
女性委員の比率が4割を満たす審議会等の割合（委員3人の場合で男女比2対1なら可） 出典：企画課の調査結果	2017年度 実績 53.1%	55.2%	60%

詳しくは中野区ホームページをご覧ください。

編集後記 from 区民編集委員

■「多様性」を認め合える社会になれば、男女差別をはじめ、障がい者や外国人などへの問題が解決される気がします。まず、目の前にいる人を理解することから始めたいです。（阿部）

■自分らしく生きること、そして、他者と自分の違いを受け入れ、認めること。それは多様性の時代に生きる私達一人ひとりができることだと思います。（温）

■出会えた本が、ブレディみかこ氏（著）「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」。多様性の事、日々子どもを観察しながら、楽々と乗り越えていくと実感しています。（鈴木）

■多様性は職場や地域など、日常の組織文化の中のどこにでも存在します。女性や少数派などあらゆる多様性が尊重され、それぞれの能力が活かされる、それが当たり前ですね。（野崎）

■テーマ決定から原稿執筆まで、編集委員5人が意見を出し合って作業を進めました。多様なバックグラウンドを持つ人たちと、ひとつの物事に取り組む楽しさを実感しました。（山中）

女性に対する暴力をなくす運動パネル展のご案内



- ◆日程：11月18日（月）～11月22日（金）
- ◆時間：8時半～17時半
※最終日は16時まで
- ◆会場：区役所1階 区民ホール

2019年11月5日(火)から住民票とマイナンバーカードに旧姓(旧氏)が併記できるようになります

女性活躍推進の観点から住民基本台帳法施行令等の改正が行われたことによるものです。併記を希望する方は住所地市区町村にて手続きをする必要があります。詳しくは総務省ホームページをご覧ください。

総務省 旧姓併記



〒164-8501 中野区中野4-8-1

区役所内 4階7番窓口

Tel 03(3228)8229 Fax 03(3228)8860

Eメールアドレス danjosenta@city.tokyo-nakano.lg.jp

▶窓口 月～金曜日 8:30～17:00(祝日、年末年始は除く)



中野区男女共同参画センター
アンサンブル

講座等の情報をメールでお知らせします。ご希望の方は、男女共同参画センターにお知らせください。